

1 学校自己評価について

- ・新型コロナウイルスの影響が教育活動の様々な面にあったと思うが、出来ることを実施しようとする取り組みの姿勢が分かる。評価の平均が3.3で昨年度と同じであるというのは、教職員の意識の高さの表れだと思う。
- ・ICTの活用は今後いっそう必要になる。研究授業を通して指導力を高めてほしい。
- ・評価の平均値をご提示いただいているが、先生方の数値分布が気になります。
- ・生徒指導部の高評価と生徒保護者のアンケートのギャップを感じてしまう。
- ・こちらにも新型コロナの影響にもかかわらず、概ね良好ということだと思います。オンライン授業などについては、悪い面ばかりでなくよい面もあると思います。生徒や先生方の意見や感想を集約して今後に活かしていってもらえればと思います。
- ・コロナ禍の中で、よく教育しておられることに感謝しています。R1とR2の評価を比較してみて、進路指導部の評価がいずれも大きく下がっている点が気になります。進路、出口の成果は学校の評価に直結するので、いっそうの努力を期待します。
- ・評価が3.3というのは普通すぎるような気がします。1つから改善していくことが大切だと思います。
- ・進路指導部の評価がいずれも大きく減少しており、徹底した分析をお願いしたい。

2 生徒・保護者アンケートについて

- ・コロナ禍においても生徒・保護者の評価が高い。特に「村岡高校に入学してよかった」と回答していることから、教育活動の充実を感じる。
- ・生徒のプレゼンテーション能力が高い。プレゼンテーション能力は総合力である。
- ・「入学させてよかったか」のアンケートで評価①そう思わない②あまりそう思わないの出現があることが問題・課題と考えます。
- ・「学年日より・通信」について、評価①②の出現率が生徒32%、保護者24%であれば、要改善と感じる。生徒保護者のニーズに対応しきれてないと感じる。
- ・授業・学力・部活における保護者評価①②が20%を越えている点が気になります。打開策は関係者のコミュニケーションにあると考えます。
- ・新型コロナの影響があったにもかかわらず、いずれの評価項目も肯定的な評価がほとんどで、全体として良好という結果だと思います。「そう思う」の比率に注目して分析してみるといいかもしれません。コロナ対応に対しては、具体的な意見が出てくるような設問が望まれます。
- ・生徒と保護者の考えが概ね一致しているようでよいと思う。マイナス評価「あまりそう思わない」「そう思わない」の割合を下げる工夫をお願いしたい。特に11,12,13の授業、進路についてプラス面を高めてほしい。
- ・番号1(学校設備施設等環境)が少し気になりました。改善できるところはできればやっていただきたい。その他はほぼ良いのでは。
- ・自身が村岡高校に入学してよかったかという質問に対して、4.8ポイントがついていることについては、生徒自身がいい学びができていう感触があることは評価ができると思う。ただ、これが例えば地域創造系の3年生が、2年時と比べてあがっているのか、下がっているのか、その部分が読み取れるような分析になっているとよいと思う。

3 本校の現状と今後の展望について

- ・少人数という特徴を生かし、生徒一人一人に即した教育を進めていただきたい。村岡高校は地域の大切な学校であると思う。

- ・学校としてやれることを最大限されている成果が今回の報告を表していると思います。しかしながら定員をはるかに下回る入学者数を向上させることがなければ、どんなによい成果をあげても廃校や、合併となってしまいます。外部の力として学生を集める力の長けた方の支援を受けることが重要ではないかと感じます。
- ・新入生の数が大きく下がったことが気にかかります。地域創造類型の創設や村高元気プロジェクトの開始から10年になりますが、事業がマンネリ化することなく、次のステップに向けて村高メソッドの確立と対外的な魅力発信を進めていただきたい。
- ・生徒数の増加が最大のテーマだと思います。
- ・取組の基礎になる統一的な地域の課題を探り、見つけることが次のステップにつながると考える。
- ・地域創造類型やアウトドアスポーツ類型を展開した当時、『地域』をテーマにして高校はほとんどなかったため、非常に活気的な取り組みという世間の評価もあったように思うが、少子化の進行で他の高校も特色をだしはじめたことで、優位性が薄れてきたように思う。
- ・前回の会議でも申し上げたが、地域の振興にはデジタル化は必須であり、いかにそれを活用できるかは大きなスキルの一つになりうるため、ZOOMなどのオンラインミーティングの活用や、生徒自身によるSNSの発信の強化が重要である。さらには外部講師を活用するためにも、オンラインを活用することで、外部講師の時間制約を少なくしたりすることも可能になる。
- ・学校の評価として重要な指標は結局のところいかに多くの受験者合格者を獲得するかということに尽きると思う。しかし、学校運営委員会などで、その部分をKPI（重要業績評価指標）には位置付けていないため、その数字にはコミットメントする必要があると思う。ただ学校のもう一つの評価として、いかに有名大学に入学させたかというKPIがあるが、その部分を追わない形でどう社会的評価を得るのかということが非常に難しい。人間力の向上、例えばあいさつができるとか掃除ができるかそういうものを重要指標にしてはどうだろうか？
- ・生徒数の減少、進路の多様化等、1学年40人を超える人数の確保がさらに厳しくなると考えられます。中高の連携をさらに深め、地域に貢献できる人材の育成に共に取り組んでまいりましょう。
- ・村高だより11号「村高をどうやって売り出すか!？」授業中で考えてくれるということで大変期待しています。中学生の生徒数も減っており、他校へも行きやすい状況になってきていますが、但馬外からいかに呼び寄せるか、大胆なアイデアをお願いします。

4 その他

- ・幼小と高校の連絡を次年度もお願いしたい。
- ・今の学校での取組は素晴らしいの一言。わが子が通った10年前とはまったく違い驚く。今後に期待します。
- ・生徒・教職員の皆様大変だと思いますが、今後も村高の特色である地域に根ざした活動や勉学に取り組んでください。
- ・地域になくってはならない高校であり、なくしてはならない高校だと改めて思いました。